

アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究

——「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察——

「隠岐」調査における研究活動報告

研究代表者 小林 光一郎

本研究は、アチック・ミュージアム（以下、アチック）及びその主催者であった渋沢敬三の調査活動や、その調査に関連して得られた諸資料から、アチックやアチック同人に関する情報の蓄積とアチックの実態の追求を主眼とした基礎研究を行うことを目標とし、アチックの隠岐調査を事例とするものである。具体的には、隠岐調査がどのような理由で、どのような方法で、どのような結果だったのか、その実態の解明を目的とし、さらに、アチック内への結果的な影響やその後の同人たちの研究に与えた影響などの研究史的考察、また、調査対象地である隠岐における調査当時の状況（アチック写真を原典）から現在における経年変化の記録化、調査当時と現行の民俗事象に対する考察など、隠岐やその周辺の領域における民俗も研究対象とした考察を行うものであり、最終的な成果として、上記考察以外に、隠岐調査に関する諸資料の提供も念頭においている。



写真1 サブロウイワ（西ノ島宇賀付近から中ノ島を望む 2016年9月13日）



写真2 2017年牛突き初場所での調査風景（隠岐の島町池田 2017年1月8日）

2016年度は隠岐島前地域調査、隠岐島後地域調査（牛突き行事）を含む現地調査と、昨年からの越年課題となった国立民族学博物館における民具調査の二つを柱に研究活動を予定し、概ね当初の年間予定をこなすことができた。また、各関係機関への調査を行った結果、昨年度の宮本馨太郎の調査メモや隠岐郷土館所蔵民具の情報などに加え、慶應義塾大学文学部古文書室所蔵資料である櫻田勝徳の隠岐に関するノートの調査を終え、これまでのアチックの調査に対する研究では提示できなかった資料・情報を得ることができた。

報告書執筆年にあたる2017年度は、昨年度からの引き継ぎの資料らとともに諸資料の翻刻やデータの整理といった、資料の提示のための作業も調査と並行して行っていく。これら隠岐調査に関する直接的・間接的な資料を基に、2017年度は最終的な成果として総合的な研究成果を提出することができると考えている。

2016年度における調査活動日程は以下の通り。

〈2016年〉

- ・ 5月21日（土）～5月22日（日）調査先：神奈川県日本常民文化研究所、渋沢史料館
- ・ 6月13日（月）～6月14日（火）調査先：国立民族学博物館
- ・ 9月12日（月）～9月14日（水）調査先：島根県隠岐郡西ノ島町
- ・ 11月27日（日）～11月30日（水）調査先：島根県隠岐郡西ノ島町

〈2017年〉

- ・ 1月7日（土）～1月10日（火）調査先：島根県隠岐郡隠岐の島町
- ・ 2月20日（月）調査先：慶應義塾大学文学部古文書室
- ・ 3月4日（土）～3月5日（日）調査先：神奈川県日本常民文化研究所、渋沢史料館